

## 論文番号 39

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Dietary and Other Methyl-Group Availability Factors and Pancreatic Cancer Risk in a Cohort of Male Smokers

食事因子および他のメチルグループへの転換可能因子と膵臓がん発症リスクとに関する喫煙者集団でのコホート研究

執筆者

Rachael Z Stolzenberg-Solomon, Pirjo Pietinen, Michael J Barrett, Phillip R Taylor, Jarmo Virtamo, Demetrius Albanes

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001;153:680-7

キーワード

Alcohol drinking, folic acid, methionine, pancreatic neoplasm, pyridoxine, smoking, vitamin B12

要旨

食事性の葉酸摂取やメチルグループ供給元となる他の因子が、外分泌性の膵臓がん発症とどのような関係にあるかを、アルファトコフェロール、ベータカロチン癌予防研究コホート、27,101人の健康な男性喫煙者50-69歳を対象とした前向き調査で実施された。1985-1997年の13年間の追跡期間中に、157名の膵臓がんが発症した。調整したオッズ比は食事からとる葉酸摂取量の5分割群の最も高い群は最も低い群に対して、0.52であった。食事からとるメチオニン量、ビタミンB<sub>6</sub>、B<sub>12</sub>あるいはアルコール摂取量はこの関連に影響を与えなかった。本研究では、膵臓がん発症リスクに喫煙量のほかに、葉酸摂取量が影響を与えることが明らかとなった。